

第五十九回
帝國議會
貴族院

抵當證券法案特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

抵當證券法案

不動産登記法中改正法律案

民事訴訟法中改正法律案

競賣法中改正法律案

民事訴訟用印紙法中改正法律案

日本勸業銀行法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

國稅徵收法中改正法律案

貯蓄銀行法中改正法律案

委員氏名

委員長

子爵伊東 祐弘君

副委員長

松本 丞治君

子爵前田 利定君

水上長次郎君

有吉 忠一君

男爵渡邊 修二君

菅原 通敬君

藤山 雷太君

名取 忠愛君

昭和六年三月十三日(金曜日)午前十時九

分開會

○委員長(子爵伊東祐弘君) ソレデハ是カ

第四部第十六類 抵當證券法案特別委員會會議事速記録第一號 昭和六年三月十三日

ラ抵當證券法、其他九件ノ特別委員會ヲ開キマス、チヨット其前ニ皆サンニ御諮リヲ致シテ置キマスカラ、豫算ガ今日上程サレルノデアリマスカラ、今日ハ司法當局ノ御説明ヲ午前ニ承ハッテ、午後ハ休ンダラドウカト思ヒマスカ、如何デアリマセウカ

〔異議ナンシト呼フ者アリ〕

○委員長(子爵伊東祐弘君) デハサウ云フコトニ致シマス、司法當局カラ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(井本常作君) 抵當證券法案ノ

大體ノ説明ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、本法案ハ不動産金融ヲ益ミ圓滑ナラシムルガ爲ニ、抵當證券ノ制度ヲ創設スル必要ノ存スルコトハ既ニ本會議デ申上ゲマシタ通りデアリマス、抵當證券ハ抵當權者ノ申請ニ依リマシテ、抵當物件ノ所在地ヲ管轄スル登記所ガ發行スルノデアリマス、豫メ證券ノ發行ヲ許ス特約ノ存スル場合カ又ハ證券交付ノ申請ニ當リマシテ、抵當權設定者等ノ同意アル場合デナケレバ、登記所ハ證券ヲ發行セヌコトニナッテ居ルノデアリマス、又登記所ガ抵當權者カラ此申請ヲ受ケマシタトキハ債務者、抵當物件ノ所有

者等ニ對シテ證券ノ發行ノ異議アリヤ否ヤヲ確メ、異議ノアル場合ニハ事件ヲ裁判所ニ送りマシテ、異議ノ理由ガナイト云フ裁判ガ確定シナケレバ之ヲ發行スルコトガ出來ナイヤウニナッテ居ルノデアリマス、斯様ナ手續ニ依リマシテ證券ガ發行サレマシタトキハ、債權ト抵當權トハ證券ニ化體セラレマシテ、是等ノ權利ハ證券ノ裏書ニ依テ移轉セラレ、別ニ移轉登記ヲ必要トシナイノデアリマス、此證券ハ只今申上ゲマシタ通り關係者ノ異議ガナイト云フコトガ確メラレタ上發行シタモノデアリマスカラ、債

務者ガ證券ノ占有ノ所持人ニ對シ異議ヲ主張シ得ベキ理由ヲ以テ對抗スルコトガ出來ヌヤウニナッタノデアリマス、又此證券ノ裏書人ハ手形ノ裏書人ト同様ナ擔保責任ヲ負擔シテ居リマシテ、證券ノ所持人ガ抵當物件ニ依ッテ辨濟ヲ受クルコトガ出來ナカク

債權ノ部分ハ、證券ノ裏書人ニ於テ之ヲ償還セネバナラヌコトニ致シタノデアリマス、

故ニ裏書人ニ信用ノアル場合ニハ擔保物ニ付テ十分ノ調査ヲ爲サズトモ、安シクテ證券ノ裏書ヲ受クルコトガ出來ルノデアリマス、以上ガ大體本法ノ骨子デアリマス、

又不動産登記法、民事訴訟法、競賣法等ノ改正法律案ハ、抵當證券法ノ制定ニ伴ヒマシテ、不動産ノ登記ノ手續、強制執行及ビ競賣ノ手續等ニ必要ナル改正ヲ加ヘタ次第デアリマス、又民事訴訟用印紙法ノ改正法律案ハ抵當證券ノ發行ニ對スル異議申立等ノ貼用印紙等ノ現定ヲ追加シタモノデアリマシテ、是等ノ事項ニ關スル詳細ナル説明ハ後ニ政府委員ヨリ詳細ニ申上ゲルコトニ致シマスカラ、何卒十分御審議アラムコトヲ御願ヒスル次第デアリマス

○委員長(子爵伊東祐弘君) ソレデハ民事局長カラ此規定ノ内容ヲ細カイ所ノ御説明ヲ御願ヒ致シマス

○政府委員(長島毅君) 詳細ナコトハ何レ

逐條ニ入りマシテカラ申上ゲルコトト存ジマスカラ、極ク大體ノ骨子ヲ申上ゲタイト存ジマス、只今モ井本政府委員カラ大體申上ゲタ所デアリマスカ、本法ハ極ク簡單ナ言葉ヲ以テ申上ゲマスカ、土地其外建物、地上權等ヲ抵當ニ入レマス場合ニ、抵當證券ト云フモノヲ登記所カラ債權者ノ申請ニ依ッテ交付スルコトニナルノデアリマシテ、其抵當證券ハ結局ハ抵當權附ノ手形ノヤウ

ナ形ヲナシテ居ルノデアリマス、抵當證券ヲ發行イタシマス際ニハ債務者其外主ナル利害關係人ノ特約ヲ必要ト致シマシテ、其特約ガアル場合ニ初メテ登記所ガ抵當證券ヲ發行スルコトニナルデアリマス、尙ホ發行ニ先ダチマシテ、登記所ハ是亦債務者其外ノ主ナル利害關係人ニ一定ノ事項ニ付テ異議ノ申出ノ催告ヲ致シマス、何カ抵當證券發行ニ付テ異存ガアツタナラバ申出デロト云フコトヲ催告ヲ致シマシテ、其期間内ニ異議ガアリマセヌト、玆ニ初メテ抵當證券ヲ出スコトニナルデアリマス、是ハ結局一旦抵當證券ヲ出シマシテ、其後其抵當證券ガ順次ニ讓渡サレテ參リマシタ場合ニ、抵當證券ノ内容ニ付テ色ミナ異議ガアリ、其抵當證券ヲ受取ッ者ガ一々其異議ニ依ッテ、其抵當證券ヲ受取ッ者ノ權利ニ影響ガアルヤウデハ困リマスカラ、抵當證券ヲ發行スル先ヅ一番初メニ異議ヲ申出デサセテ、或一定ノ期間内ニ異議ヲ言ハナケレバ、異議ノ申出ヲ打切ッテシマフ、其後ハ抵當證券ガ極ク圓滑ニ安心ヲシテ取引ヲサレルト云フ、サウ云フ目的カラ斯ウ云フコトニナツタモノデアリマス、抵當證券ガ出マスト、其後ハ抵當權附ノ債權ノ讓渡ハ、必ズ此抵當證券ヲ交付シ、相手ノ者ニ渡シ、

且ツ抵當證券ニ裏書ヲシナケレバナラヌコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレハ丁度手形ト能ク似タ關係ニ立ッテ居リマス、斯ウシテ非常ニ便宜ニ此抵當權附ノ債權ガ取引セラレルヤウニナリマシテ、此抵當權附債權ノ讓渡ニ付テハ、別段ニ登記ヲ致シマセヌデモ第三者ニ對抗シ得ルコトガ出來ルヤウニナツテ居リマス、愈、辨濟期ガ參リマシテ抵當證券ヲ債務者ニ差出シテ、債務者ガ滯リナク其債務ノ辨濟ヲ致シマスレバ問題ハゴザイマセヌガ、若シ拂ヒマセヌヤウナ場合ニハ抵當權ヲ實行スルコトニナルデアリマス、而シテ其結果ハ裏書人、其手形ヲ裏書キシタ人ノ全體ニ對シテ償還請求權ヲ行使スルコトガ出來ルヤウニナルデアリマス、此償還請求權ヲ行使スルニ付キマシテハ辨濟期ヨリ少クトモ一箇月以内ニ其證券ノ所持人ガ債務者ニ支拂ノ要求ヲ致シマシテ、サウシテ若シ支拂ヲ致シマセヌケレバ、公證人トカ若クハ執達吏ニ支拂ノナイト云フコトノ證明ヲサセルコトニナツテ居リマス、是ハ恰モ手形ノ償還ヲ請求イタシマス場合ニ、拒絕證書ヲ……支拂ノナイ場合ニ拒絕證書ヲ作ルト大體同ジヤウナ振合ヒトナツテ居ルノデアリマス、而シテ更ニ此三箇月、更ニデハアリマセヌ、返濟期ノ三

箇月内ニ必ズ競賣ノ申立ヲシナケレバナラヌコトニナツテ居リマス、デ詰リ一箇月内ニ支拂ノ要求ヲシ、三箇月内ニ競賣ノ申立ヲスルト、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、デ愈、競賣ノ結果金ガ足りマセヌト、足りナイ分ニ付テ其裏書人ヨリ責任者ニ皆段ミト償還ノ請求ヲシテ行ケルヤウニナツテ居ルノデアリマス、勿論、併ナガラハ是ハ償還ノ請求ヲスル要件デアリマシテ、別段ニ三箇月内ニ競賣ノ申立ヲ致シマセヌデモ、此債務者ニ對スル權利ハ無クナル譯デハゴザイマセヌガ、裏書人ニ償還請求ヲ致サウト致シマスレバ、今申スヤウナ手續ヲシナケレバナラヌコトニナツテ居ルノデアリマス、而シテ大體ニ於キマシテハ、此抵當證券ノ細カイ權利關係ハ大體ハ手形ト能ク似タヤウナコトニナツテ居ルノデアリマス、詰リ不動産ノ融通ト云フコトヲ、不動産ノ抵當權ヲ目的トシテノ金融關係ノ流通ト云フモノヲ、裏書人ノ責任ヲ補ッテ圓滑ニシテ居ルト云フ關係ノモノデアリマスカラ、丁度手形トソレカラ不動産ノ抵當權ノ流通ト云フモノガ、相俟ッタクヤウナ形ニナツテ出來テ居ルノデアリマス、尙ホ色ミノ點ハ御質問ニ應ジマシテ申上ゲタイト思ヒマス

○政府委員(小川郷太郎君) 先ヅ此日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案、及ビ北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ付キマシテ、一括シテ提案ノ趣旨ヲ申述ベタイト存ジマス、我國ニ於ケル不動産金融ノ金額ハ、土地建物及ビ各種財産ヲ含ミマシテ、是等ヲ抵當トスル貸出金額ガ六十二億四千万圓ニ上ボツテ居ルノデアリマス、而シテ其金融シテ居リマスルモノカラ申シマスレバ、個人等ガ二十七億五千万圓デ、最モ多額ヲ貸出シテ居リマシテ、其次ニ普通銀行及ビ貯蓄銀行ガ十七億圓程貸出シテ居リマス、主トシテ不動産金融ヲ業トシテ居ル日本勸業銀行、農工銀行及ビ北海道拓殖銀行ガ十二億五千万圓ヲ貸出シテ居リマシテ、全體ノ金額ノ中デ約二割ヲ占メテ居ル現狀デアリマス、本來申セバ不動産金融ノ專門機關ガ普通銀行ノ不動産金融ニ占メテ居ル地位ヲ取ッテ代ルコトガ望マシイ次第デアリマシテ、普通銀行貯蓄銀行トシテモソレガ經營上適當デアルト考ヘルノデアリマスガ、實情ハ此希望ヲ實現イタシテハ居ラナイノデアリマス、一方不動産ヲ擔保トスル金融ノ必要ハ我國經濟ノ關係上益、増加イタシマスルシ、又此必要ヲ充シテ行クベキ制度ナリ方法ナリニ付テハ、十分ノ考究ヲ重ネナケレバナラヌ所デ

アリマス、數字ニ付テ見マスレバ大正元年ニ於ケル不動産抵當貸付金ハ十四億五千万圓デアリマシタノガ、昭和三年ノ末ニ於テ六十二億圓ト相成ル如キ増加ノ趨勢デアリマスカラ、不動産金融ノ圓滑竝ニ不動産金融機關ノ機能ノ増進ヲ圖ルコトハ、我國經濟ノ發達上最モ重大ナル關係ヲ持ツ事柄デアリマス、不動産金融ノ圓滑ヲ圖ルニ於テ、不動産抵當附債權ヲ證券化シテ、之ヲ容易ニ轉々流通セシメ得ル制度ヲ執ルト云フコトハ、甚ダ重要ナル事柄デアリマシテ、此證券化ニ依リ不動産貸出カ兎角固定シ易ク、又從テ不動産貸出ガ行ハレ難イ缺點ヲ除去スルコトガ出來ルノデアリマス、殊ニ我國ニ於テハ只今申述べマシタ如ク、専門金融機關以外ノ金融機關等ニ於テ、多額ノ不動産貸ヲ行テ居ル實情デアリマシテ、是等資金ノ固定ハ我金融上大ナル問題デアリ、其固定ヲ解イテ更ニ資金化スル方法ハ、現在ノ制度ニ於テ十分ニ設備セラレテ居ラナイノデアリマス、從テ平時ニ於テハ勿論、金融界ノ變調アル場合ニ於テモ常ニ不便ヲ感じ、又現在ニ於テモ誠ニ不便ト致シテ居ル次第デアリマス、而シテ今回政府ガ提案シテ居リマス抵當證券制度ノ案ニ依リマスレバ、第一、登記ノ手續ヲ要セナイデ、

單ニ裏書ニ依テ不動産抵當附債權ノ讓渡ガ出來ルコトトナリマシテ、頗ル簡單デアリマス、第二、土地建物又ハ地上權ト云フ物の擔保ノ外ニデス、裏書上ノ責任ヲ設ケテ居リマスカラ、證券上ノ權利ハ益々確定トナリマシテ、流通上ノ便宜ヲ増加セシメテ居ルノデアリマス、第三ニハ、抵當證券ニ記載シテアル、事項、既ニ債務者其他ノ利害關係人ニ於テ争ヒヲ生ゼザル事項トナツテ居ルノデアリマスカラ、確實性が強イコトトナル譯デアリマス、第四ニハ、裏書人ガ非常ニ信用ノアル人デアリマスレバ、場合ニ依テハ擔保物件ノ調査ヲ或程度マデ省略スルコトガ出來ルノデアリマス、サウ云フヤウニ數ヘ上ゲマスト長所ガアリマスノデ、不動産抵當附債券ヲ證券化シテデス、不動産金融ヲ圓滑ナラシムルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、更ニ不動産金融ノ圓滑ヲ圖ル爲ニハ我國ニ於ケル専門ノ金融機關ヲシテ十分ニ機能ヲ發揮シ、其業務ヲ進展セシメ、特權デアアル所ノ債券ノ發行ニ依リマシテ吸收シタル、長期低利ノ資金ヲ一般ニ普及セシメルト共ニ、都鄙ノ金融ヲ疏通セシメルコトガ必要デアリマス、茲ニ抵當證券制度ガ創設セラレマスレバ、不動産金融機關ト致シマシテハ、同様

ノ意味ニ於テ不動産ヲ抵當トスル債券ノ資金融化ニ關スル業務ヲ營マシムルコトガ最モ時宜ニ適フ所以デアリマス、即チ日本勸業銀行、農工銀行及ビ北海道拓殖銀行ガ不動産ヲ抵當トスル債權及ビ抵當證券ヲ質トスル定期償還貸付ヲ行フコトヲ得セシメ、又之ニ抵當證券ノ賣買ヲ行フコトヲ得ルヤウニ改正イタシタイト考ヘルノデアリマス、是等ノ業務ヲ認ムルコトニ依リマシテ、其目的ヲ十分達セシメル爲ニ現行法ニ於テハ日本勸業銀行及ビ農工銀行ノ定期償還貸付ノ限度ハ、拂込資本金及ビ積立金總高ニ相當スル金額ニ限ラレテ居ルノデアリマシガ、此際其限度ヲ二倍ニスル必要ガアリ、又農工銀行及ビ北海道拓殖銀行ニ於キマシテハ、其債券發行限度ハ拂込資本金ノ十倍ニ限ラレテ居ルノデアリマスガ、是等ノ銀行ノ中ニハ債券發行現度ノ餘裕ガ甚ダ僅少ノ額ニナツテ居ルモノモアリマスカラ、是モ亦十五倍マデ擴張スル必要ガアルト考ヘマス、其他市街地貸付制度ニ關スル規定、割増金附勸業債券ノ發行ニ依テ得タル資金ノ使途ノ制限ニ關スル規定及ビ定期預リ金ノ使途ニ關スル規定等ニ付テモソレソレノ改正ヲ加ヘル必要ガアリマス、斯ノ如ク抵當證券制度ヲ設ケマスト同時ニ、不動産金融

ノ專門機關ニ付キマシテ、之ニ伴フ種々ノ改正ヲ加ヘルコトト致シマシタガ、是ハ普通銀行等ガ不動産金融業務ニ大イニ進出スルコトヲ獎勵スル意味ヲ有テ居ル次第デアリマセヌ、從テ今回ノ改正ノ結果ニ依リマスモ、從來ノ方針ヲ維持シ、適當ノ制限ヲ監督上普通銀行ノ不動産金融ニ加ヘテ行キタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、又日本勸業銀行、農工銀行及ビ北海道拓殖銀行ニ於キマシテハ、農業者、工業者又ハ漁業者ニ對シマシテ十人以上ノ連帶アルトキハ、五箇年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無抵當ノ貸付ヲ爲スコトヲ、現行法ニ於テモ既ニ認メラレテ居リマスガ、更ニ是等ノ使途ニ對シ長期ノ低利資金ヲ利用セシメル爲ニ、十箇年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル無抵當ノ貸付ヲ認メルコトハ中小農工漁業者ノ金融ノ上カラ見マシテモ適切ナル施設ト考ヘマス、農工銀行及ビ北海道拓殖銀行ニ於テハ市町村ノミニ對スル無抵當ノ貸付ヲ認メラレテ居リマスガ、今日ニ於テハ兩行トモ資力モ相當ニ充實シテ來タノデアリマスカラ、道府縣ニ對スル無抵當貸付ヲ認メルコトハ適當デアルト考ヘマス、尙ホ日本銀行ガ政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ヲ管理シテ居リマスガ、其中日本勸業銀行發行

ノモノハ其數量ニ於テ大部分ヲ占メテ居ル
 ノデアリマシテ、日本勸業銀行ヲシテ日本
 銀行ノ代リニ之ヲ管理セシメルコトハ便益
 ガ多イノデアリマス、又農工銀行ガ發行シ
 テ居リマス農工債券ハ、現在ニ於テハ全國
 ニ廣ク普及サレテ居ルノデアリマシテ、是
 方元利金支拂等ノ關係デ農工銀行相互間ニ
 代理店トナルコトハ便益デアリマスカラ、
 之ヲ認メル必要ガアルト考ヘマス、以上
 ノ事項ニ關シテ其代行ニ付キマシテハ金融
 制度調査會ニ諮問シタノデアリマスガ、
 同會ニ於テモ滿場一致ヲ以テ可決セラレ
 タモノデアリマス、何卒御審議ノ上、速ニ
 御議決アラムコトヲ希望イタシマス、次ニ
 國稅徵收法中改正法律案ニ付キマシテ大體
 提案ノ趣旨ヲ説明イタシマス、現行法ニ於
 キマシテ納稅者ノ財産ノ上ニ抵當權ヲ有シ
 テ居リマス者ガ、國稅ニ對シテ先取權ヲ行
 使シマスルニハ、其抵當權ノ設定ガ國稅納
 付期ヨリ一箇年以前ニアルコトヲ證明シナ
 ケレバナラナイコトニナッテ居リマス、然ル
 ニ今回抵當證券制度ガ出來マシテ、納稅者ノ
 財産ノ上ニ設定セラレマシタ抵當權ニ付
 テ、抵當證券ガ發行セラレタ場合ニ、證券
 ガ轉々シマシテ其所持人ガ何人デアるか分
 明セズ、從テ稅務署ガ權利者ニ通知ガ出來

ズ、其結果トシテ債權者ガ國稅ニ對シテ先
 取權ヲ行使スルノ機會ヲ失フ如キ場合ヲ生
 ズル虞ガアリマス、斯ノ如キ場合ニハ相當
 期間ノ猶豫ヲ與ヘテ、權利行使ノ機會ヲ得
 セシメル所ノ必要ヲ認メ、茲ニ本案ヲ提出
 シタ次第デアリマス、尙ホ從來稅法ノ改廢
 ニ伴ヒマシテ改正ヲ要スルモノガアリマス
 ノデ、是モ同時ニ改正スルコト致シマシ
 タ最後ニ貯蓄銀行法中改正法律案ニ付キマ
 シテ大體ノ提案ノ趣旨ヲ説明イタシマス、
 我國ノ貯蓄銀行ハ沿革モ相當古ク、又郵便
 貯金及ビ信用組合ノ制度ト相俟テ、貯蓄機
 關トシテ發達シテ來タモノデアリマシテ、
 大正十一年貯蓄銀行條例ヲ廢止シ、貯蓄銀
 行法ヲ實施イタシマシテヨリ、其制度モ略
 ボ整備シ、銀行ノ狀態モ漸ク改善セラレル
 ニ至リマシタガ、貯蓄銀行法ヲ實施イタシ
 マシテヨリ約十年ヲ經過シ、其間財界ノ變
 遷、信託法規ノ制定、其他實施後ノ實情ニ
 鑑ミマシテ、現行法ニ一部ノ改正ヲ加フル
 必要ヲ認メ本案ヲ提出シタル次第デアリマ
 ス、而シテ今回ノ改正ニ當リテモ貯蓄銀行ハ
 零細ナル資金ヲ受入レ、之ヲ安全確實ニ保
 管利殖スル機關ナリトスル現行法ノ精神ニ
 ハ、毫モ變更スル必要ヲ認メマセムカラ、
 此方針ハ依然之ヲ遵守スルコトト致シマシ

テ改正ヲ企テタノデアリマス、改正ノ第一
 點ハ貯蓄銀行ノ業務中ニ、國債地方債又ハ
 特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券ノ
 割賦販賣及ビ是等有價證券ノ募集又ハ元利
 金支拂ノ代理取扱ヲ追加スル件デアリマス
 ガ、有價證券割賦販賣ハ庶民階級ノ貯蓄ノ
 方法トシテ極メテ適當デアル、又元來割賦
 販賣ガ貯蓄銀行ノ定期積金ニ極メテ類似シ
 テ居リマスノデ、之ヲ貯蓄銀行ニ併營セシ
 ムルコトヲ認メ、又販賣スベキ有價證券ノ
 募集ヤ元利金ノ代理支拂ヲ貯蓄銀行ニ取扱
 ハシムルモ別段差支ナキノミナラズ、却テ
 便宜ガ多カラウト思ヒマシテ之ヲ附加イタ
 シマシタ、改正ノ第二點ハ資金及ビ有價證
 券ノ運用範圍ノ擴張デアリマスガ、今回運
 用範圍ノ擴張ヲ認メマシタモノハ、第一ニ
 道府縣市町村ニ對スル短期貸付、第二、小
 額短期貸付、第三、大藏省預金部ヘノ預ケ
 金、第四、信託會社ヘノ金錢信託及ビ有價
 證券ノ信託並ニ信託會社ノ引受アル手形ノ
 買入レデアリマス、此範圍ノ運用ハ其確實
 性ヨリ見マシテ、又庶民階級ノ經濟力ノ情
 勢、又ハ貯蓄ノ美風涵養等ヨリ見マシテ、
 之ヲ貯蓄銀行ニ許スヲ適當ト考ヘマシタ次
 第デアリマス、唯是等ノ資金運用ニ付テハ
 種々ノ點ヲ考慮イタシマシテ、貯蓄銀行ガ

放漫ナル經營ニ流レナイヤウ、相當制限規
 定ヲ設ケテ居リマス、特ニ小額並ニ擔保貸
 付ノ如キハ、其性質上慎重ニ取扱フ必要ガ
 アリマスノデ、一人ニ對シ千圓以内ニ限り、
 且ツ其總額ハ拂込資本金及ビ準備金ノ五分
 ノ一ヲ限度トスルコトトシ、又其貸付ニ付
 テハ二人以上ノ確實ナル保證人ヲ要スルコ
 トト致シマシタ、次ニ改正ノ第三點ハ大藏
 省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ貯蓄銀行ノ共託
 證券ニ代用セシムル點デアリマス、現行法
 ニ於テハ預金其他ノ受入金ノ拂戻擔保ハ、
 共託シテアル國債其他ノ有價證券ニ限ラレ
 テ居リマスガ、大藏省預金部預金ハ國債ト
 同様拂戻擔保トシテ安全且ツ適當ナルノミ
 ナラズ、資金運用ニ於テ之ヲ認メマシタ關
 係上、共託有價證券ニ代用スルコトモ認メ
 ムトスルモノデアリマス、宜シク御審議ア
 ラムコトヲ希望イタシマス

○委員長(子爵伊東祐弘君) 如何デアリマ
 セウカ、是カラ御質問ヲ少シ進メマセウカ、
 此程度ニ致シテ置キマセウカ

○子爵前田利定君 今日ハ此程度ニシテ……
 マグ十分ニ讀ンデ居リマセムカラ……

○委員長(子爵伊東祐弘君) ソレデハ今日
 ハ此程度デ延會ヲ致シマシテ、明日ハ豫算
 ノ討論ニ入ルカト思ヒマスカラ、出來マス

マイカト思ヒマスカラ、月曜日ノ十六日カ
ラ御質問ニ移ルコトニ致シマス、ソレデハ
此程度デ今日ハ延會ヲ致シマス

午前十時四十五分散會

出席者左ノ如シ

委員長 子爵伊東 祐弘君

副委員長 松本 丞治君

委員

子爵前田 利定君

水上長次郎君

有吉 忠一君

男爵渡邊 修二君

菅原 通敬君

名取 忠愛君

政府委員

大藏政務次官 小川郷太郎君

大藏省銀行局長 大久保偵次君

司法參與官 井本 常作君

司法省民事局長 長島 毅君

昭和六年三月二十日印刷

昭和六年三月二十一日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局